

實  
驗  
日  
本  
修  
身  
書  
卷  
四  
尋  
常  
小  
學  
生  
徒  
用

K120.1  
55  
4c

K120.1

55

4c

明治廿九年十月八日  
文部省檢定濟

三宅米吉校閱  
中根淑  
波邊政吉編纂

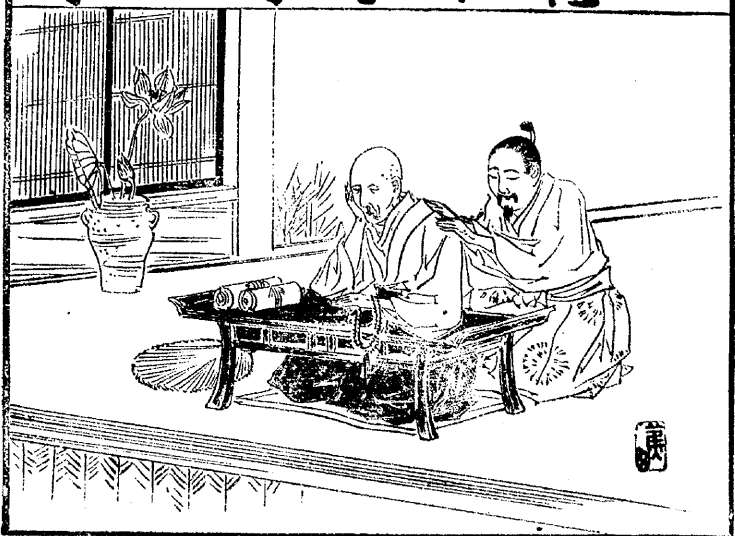
實驗  
日本修身書卷四  
尋常小學  
生徒用

東京 金港堂書籍會社

岡

第一課 孝行

人の行ひは、善きも悪  
しきも、さまたまあれ  
ども、善は、孝行に過ぎ  
たるはなく、悪は不孝  
より重きはなし。  
されば人の行ひは、孝



より大いなるはなし」とて、むかへも今も、孝  
行の人をめて、不孝の人をせめざるはなし。  
藤原良繩フジハラヨシヅネは、孝行の心深き人なり。父の  
つとめさきに、死したるをききし時は、  
悲しみて氣絶し、母の病ひにかかりし時は、  
晝夜たこたらず介抱カイボウしたり。  
人の行ひは、孝より大いなるはなし。

第二課 孝行

仁德天皇は、應神天皇第四の御子にして、天性至孝にましまりたり。其の皇子にては、ましまりしころ、父帝年老いて、末の御子稚郎子を愛したまへり。或る日皇子と其の御兄とを召して、「汝等子を愛すや、又幼きと年長けたるとは、いづれを愛する

や」と問ひたまへば、皇子は、早くも父帝の御位を弟に譲らんの御心あるをさと、「幼きを愛す」と答へたまへば、父帝大いに悦び、「汝が言、能く朕が心に合へり」と宣ひて、遂に稚郎子を立てて皇太子と爲したまへり。

孝子の老を養ふや、其の心を樂しましめ、其の志にたがはず。



第三課 友悌

作兵衛といへる人は、兄より少一の家産を受け、別に家をかまへて、弟と同どく住みけるが、兄の家ねどろへて、田畑をうりつくさ

んとするを見て、懇にいさめ、我が家にうつりすまはせて、三人共に農業をつとめ、其の取り高を三つに分ち、睦くくくらたりとぞ。  
兄は、何事も弟に先ちて、弟をひきまはし、弟をば憐みいたはり、弟は、何事も兄のつぎに立ち、兄に従ひてうむくことなく、兄をあげめうやまひ、大切にすべし。

第四課 兄弟

兄弟の親しみを全くせんには、兄は、弟を  
憐みいたはり、弟は、兄をあがめりやまひて、  
小利を争ふことなきにはいかず。

本多忠勝ホンタタカカツ、病みて死せんとする時、黄金一萬兩を、  
次男忠朝タキトモに分つべきことを遺言ユキゴトせり。忠勝死し  
たる後、長男忠政タケマサ之をききて、「父の遺したまへる

ものは、皆我が物なり」とて、金を渡さざりしに、  
忠朝少くも争ひうらみず、「兄上は、家來も多ければ、  
其の金を納めたまきて、扶助フタゴの料にあてらるべし、  
我は、家來も少ければ、金の入用なり」といひたり。  
忠政之を聞きて、深くはぢいり、一ひて金を渡し  
ければ、いなむに言葉なく、「さらば入用の時まで  
あづけられたし」とて、生涯シヤウカイ受け取らざりき。

徳川頼宣、那波某に向  
 ひて、女子のつけ方を  
 たづねゝに、女子には  
 學問を修めゝめ、貞信  
 の道をわきまへゝむる  
 の外に、大切の事三つ



あり第一は、自ら髪を結ふことなり、第二は  
 裁縫に熟することなり、第三は、料理の仕方  
 を知ることなり、と答へたり。

凡そ女子にして、髪ゆふことを善くせず、  
 衣服をたちぬひすることを知らず、食物を  
 料理することを知らざれば、不自由多く、其  
 の上、無益の費に多くして、家ををさめがたし。

第六課 朋友

徳川秀忠トクガハヒデタカ病ひにかかりし時、永田徳本トクホシのれうぢをうけしに、忽ちにいひければ、褒美カサビを與へんといふに、「藥代の外は、ただかす」とて、ことばりたり。なほ「何なりとも、望みあらば、申したうべし」といへば、「さらば我が友だちに貧しきものありしれを以て、其の友をすくひたし」と答ふ。

秀忠これに感ずて、其の言の如くに爲したり。友だちとつきあふには、あひたがひに信實の心をむねとして、たのもしくまごはるべし。友だちの心得ちがひありて、わるきことあらば、意見をいひ、難儀ナシギなることをばすくひたすけ、何事も信實にしていつはりなく、たのもしくするを朋友の信といふなり。



第七課 朋友

朋友は、互に信を守りて、たのもしくすべし  
新井白石は、木下順庵の門人なり。順庵、白石を  
加賀侯にすすめんとしけるに、同門人に  
岡島石梁とて、加賀の國のものあり、この事を  
ききて、白石に向ひ、「余は國許に老母ありて、  
久しく余がかへるをまてり。若し師のすすめに

て、本國の君に仕へ、老母の心をなぐさむること  
を得ば、此の上もなき喜びなり」といひたり。  
白石其の心をあはれみ、直ちに順庵につげ、  
「小子は、何れの國に仕ふとも、更にわらぶとこ  
ろなし。願はくは、小子をたきて、まづ石梁を  
御すすめ下され」とこひければ、順庵感入りて、白石のいふ如くになりたり。

第八課 公明

事に當りては、まづ  
其のよーあーを明  
らめ、義に基きて之  
を行ふべし。

昔青砥藤網といふ人  
北條時頼に仕へて裁判

青砥藤網、訴  
状をうらぶ。



の事を司り一時、一人の武士、時頼の領分のもの  
と田を争ひて、訴へ出でたり。役人ども時頼を  
たろれ、武士の方を非と一けるに、藤網委しく  
取りらべ、正しくさばきて、武士の申し立ての  
如くに爲したり。武士其の恩に報いんとて、陰に  
金を其のやまきへなげいければ、藤網禮を受く  
べき理なしとて、直ちにたくりかへさしめたり。

第九課 公明

板倉勝重イロクラカシゲ、京都キョウトにありて、所司代シヨシタイといふ役をつとめしころ、宅地タクヂの界サカイをあらうひて、訴ウラナヒへいでたるものあり、其のもの、かねて勝重を知りしかば、瓜ウリの初物ハツモノをたくりて、裁判サイバインの事をたのみたり、勝重は、瓜を受けて、ただ近日キンジツのうち、土地チを見分ケンブンせんとのみ答へたれば、其のもの、さては己れの申し

立ての如くなるべしと、心の中に悦び居たり程なく勝重見分にゆき、かかりあひのもの一同を呼びだして、其の地界チカイをただし、やがて瓜をたくりしものに向ひ、先日ケンジツは、めづらしき瓜をたくりて、かたどけなし、さて此の地は、見分をとげたるに、隣家リンカのものにさうるなければ、早早ソバトひきわたさるべしとたごうかに申し、わたしたりとごう。

第十課 博愛

世に住むこと一日な  
れば、一日の善人とな  
るべし。一日も善を行  
はずして、日をたぐる  
べからず。

藤七トウシチは、洪水コウスイの出で一時



舟を出して人をたすけ、又用水の溝ミヅヅミをほりて、  
村の益をはかりたり。

吾か家の内、又は家の外なる道に、人の往來の  
障サカりとなるものあれば、之を除きて他所へ移し、  
喉ノドかわく人には、一杯の水を與へ、疲ツカれたる  
ものには、一碗の食を與ふる類タガヒ、いささかなる  
事ながら、人の益となること極キハりなかるべし。

第十一課 學問

萬づの事、學ばざれば、誠の志ありても、其の道を知らずして、正理を行ひ難し、殊に忠孝の二つに、志はありとも、其の道を知らざれば、忠が不忠になり、孝も不孝になる、故に殊更忠孝の道をよく學び、其の法を知りて行ふべし。

中江藤樹は、十一歳の時、大學を讀みて、天子より庶人に至るまで、一に皆身を修むるを以て本とす、といふに至り、深く感心して、此の書幸に今にのこれり、聖人も學びて至ることを得べきなり、といひ、が、それよりいよいよ書を讀み身を修めて、名高き人となりたり。人學ばざれば、道を知らず。

第十二課 勤勉

筑<sup>チクゴ</sup>後の國の農夫某の  
 妻に、たき女といふも  
 のあり。夫病ひにかかり  
 家貧しくして、藥を求  
 め、生計を立てがたか  
 りかば、つけぎをけ



づり、錢を取りて、其の料にあてたり。夫死  
 たる後は、七里の道を往きかよひて、生魚を賣  
 り、或は朝早く起きて、山に往き、落<sup>オ</sup>ち葉<sup>ハ</sup>枯<sup>カ</sup>れ  
 枝<sup>エ</sup>を拾ひて之を賣り、老母と幼兒とを養ひ、多  
 年の間、怠ることなく、其の業を勵<sup>ハ</sup>みかば  
 つひにゆたかに世をねくるにいたれり。  
 かせぐにたひつくびんばふなり。

第十三課 養生

寺澤廣高は、肥前の國唐津の城主なり。常に養生を心がけ、毎日午前四時に起き出でて、二時の間、職を勤め、食事前必ず馬に乗りて、馬場を駆け廻り、食事後は、武藝を學びて、身體を健にし、用事なければ、午後六時にいねて、身體を休め、精神を養ひたり。されば平生は勿

論軍に臨みても、人に後れを取らざりき。

廣高常にいへるやう、夜ふけまで、無用の事を語りあへば、徒らに精神をつからせ、明日の勤めをも妨ぐるものなり」とて、召し使ひの人人へも、早く暇を與へ、眠りにつかゝめたりとぞ。

曉には、早く起きんことを要し、夜は、熟眠せんことを要す。



第十四課 後を圖る

或る時徳川家光、老僧  
の接ぎ木ツキするをみて、  
「愚かなるわざならずや」といふに、僧みかへりて、  
「抑御身は何人なれば、  
かかる心なき事をいふ

づや、試に思ひみるべし。今此の水を接ぎたけ  
ば、後住の代に至りて、何れも大木となりぬべし。  
其の時に至らば、林も茂り、寺の景色もよくな  
りなん。我はただ寺のためを思ひてこそ接ぎ  
木するなれ、我が身一代のためばかりを思ふに  
あらず」と答へければ、家光其の心入れをほめ  
て、褒美を與へたり。



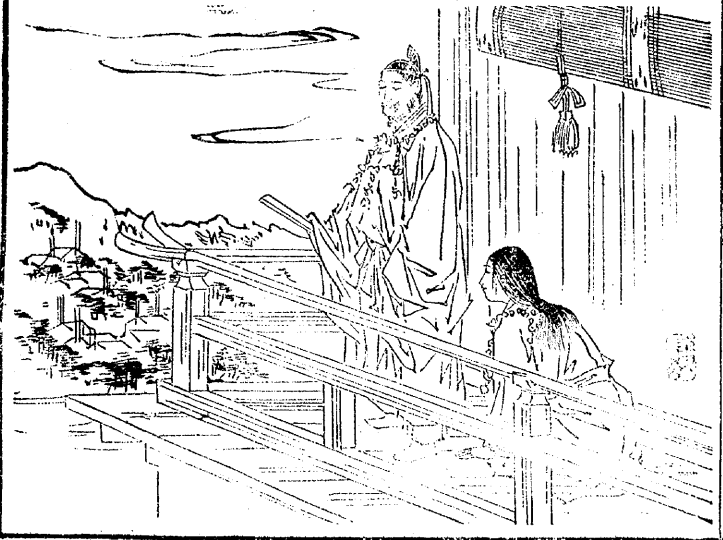
第十五課 沈毅

凡う人は、沈毅チンキとて、心雄雄コウコウしくして、ねちつき  
 たるをよとす。臆病オウビョウにして、心ねちつかざれば、  
 事をあやまりやすし。されば、常常心をたけく  
 もち、心のねちつきを工夫し、事にのぞみて、ねど  
 るきさわぐことなからんやうに心がくべし。  
 或る時池田輝政イケダテルマサ、岐阜ギフの城を攻めねどし、

其の右筆芳賀内藏允イサヒツハガノクワンノサトルを召して、勝ち軍の  
 一らせをかかめたり。をりふり城の焰硝エンゼツ  
 ぐらに火うつりて、ねるるきとければ、  
 人人あわてねどるきしに、内藏允のみは、  
 手さへふるへもせず、ねちつきて、がみを  
 かきおたりとす。  
 勇者は、ねるれず。

第十六課 皇恩

世世の天皇は、いづれも  
仁恵ふかくまゝまゝ  
が、殊にすぐれて、民を  
愛したまひしは、仁徳  
天皇にぞありける。  
天皇の御世に、凶年キヨウネンり



ちつづきしことあり。あるとき天皇、民の  
かまどより立ちのぼる烟りのまれなるを  
御らんとて、其の貧しきを知り、シロ供御の  
費はをはぶきて、ソノゼイコウエキ租税公役をゆるし、ゴイリヨウたまへり。  
かくて三年をすごしけるほどに、民のかまど  
より、烟りも盛んに立ちのぼりければ、「朕已に  
富めり」とて、悦ばせたまひたり。

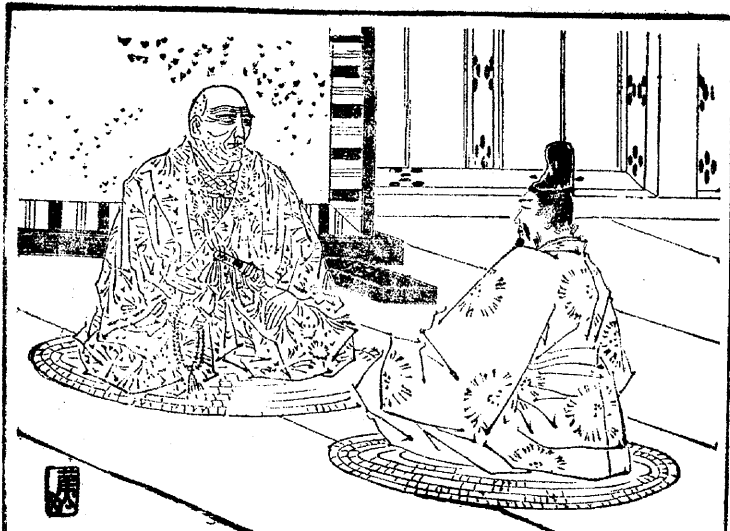
第十七課 報恩

人は、貴きも賤いやきも、世にある間は、人より恩を受けずといふことなし。も一人より恩を受くることあらば、深く心に留めおきて、久しく忘れず、常に其の人の幸をいのり、恩に報ゆるの道をたもふべし。かりしめにも、人の恩誼オンギをかるんど、其の

心をうこなふべからず。

喜兵衛キヘイといへる人は、もとの主人の家、火事にあひて、難儀にたちいりし時、其の家に來りて、貯へたきたる金を出し、且田畑を耕して、之を助け、主人の死したる後、其の子孫を助けて、もとの恩に報いたる。恩に報ゆること、誰もかくころありたけれ。

第十八課 忠孝



圖

むかへ平清盛の、たごり  
をきはめころ、藤原  
成親といふもの、清盛を  
にくみて、之を亡さんと  
しけるに、後白河法皇も  
亦之に與みたまへり。

清盛之をまきて、大いに怒り、成親をとらへ、且  
法皇をもたしこめ奉らんとしけるを、清盛の長子  
重盛シゲモリ父の前に出で、世に皇恩ほど重きはなし  
然るを今其の大恩を忘れて、不忠の事を行はん  
とせば、神明シノイいかでか助けたまはんや」と誠マコトを  
つくして諫めければ、清盛遂に思ひ止りたり。  
孝を以て君に事ふれば、則ち忠なり。

第十九課 忠愛

後一條天皇の御代、女眞の賊來りて、對馬壹岐の二島に寇し、壹岐守某を攻め殺し進みて筑前の國に攻め入りたり。時に藤原隆家といふ人、太宰權帥として宰府にありけり。此の人、弓箭のわざこころ習はざれ、心は雄雄きものなりしかば、直ちに兵を出し迎へりち

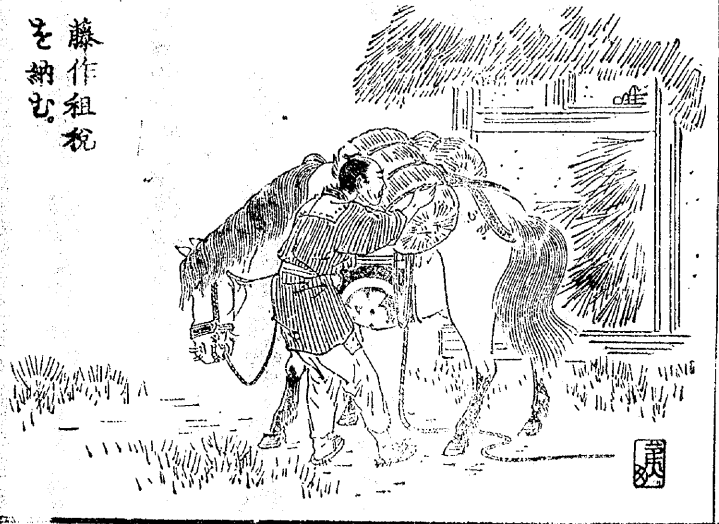
ちて、賊を退けたり。

賊猶すきをうかがひて、他の處を攻めしかど、隆家諸將に令をつたへ、兵を出し船を發して、之を伐ち退けければ、賊勝ちがたきを知りて、遂に逃れ去りたり。

國をうれへて、家をわすれ、身をころして、難をすくふは、忠臣の志なり。

第二十課 國法

國に掟なければ、弱きものは、強きものの爲めにたゞつけられ、強きものも、常に争ひ合ひて、一日も安き日はなかるべし、されば古より掟を



藤作租税を納む

定めて、是等の争ひをふせぎ、善き人をたすけ、惡しき人をこらすことなり。

藤助といへる人は、常に國の掟を重んじ、租税は、必ず人に先ちて納め、又村の人に向ひて、國の掟を重ずべき事、諸役人の命を守るべき事等をさとしけるが、何れも其の誠意に感ずて、其の言の如くに爲したりといふ。

K1201-55-48  
C

金港堂書籍株式會社

卷一三四	明治廿六年六月十日印	刷	尋常日本修身書徒用
全	年六月廿七日發	行	卷一 金六錢六厘
全	年九月三日訂正再版印刷	行	卷二 金六錢六厘
全	年九月七日發	行	卷三 金六錢六厘
			卷四 金六錢六厘
			卷五 金六錢六厘
			卷六 金六錢六厘

版權所有

著者 渡邊政吉  
 發行者 金港堂書籍株式會社  
 印刷者 東京市日本橋區本町三丁目十七番地  
 代表者 原亮三郎  
 金港堂書籍株式會社社長  
 東京市下谷區龍泉寺町四百十番地

○本書ハ用紙印刷製本等ニ注意セリ萬一粗製ノモノ有之候  
 節ハ御通知次第御引換可申候  
 ○本書ハ僻遠ノ地ニ至ルモ定價ヲ超過シテ賣捌カシムルコ  
 トナキハ勿論直接ノ御注文ハ多少ニ拘ハラズ運賃ヲモ負  
 擔可仕候

岡治道

